P3-5

岐阜県全国がん登録室活動報告
－変遷と登録精度維持の引継ぎ取組について－

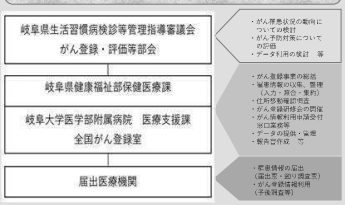
岐阜大学医学部附属病院　全国がん登録室
纐纈五月　牧山明資　小平良子　杉山由花

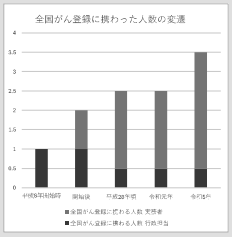
【はじめに】

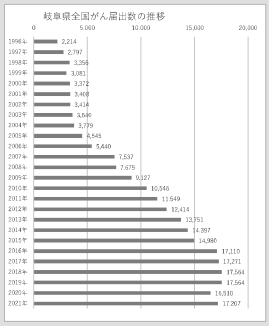
■登録室の変遷

1994年　モデル地域（飛騨医療圏）でがん登録を実施
1995年　全県下で岐阜県がん登録事業を開始
1996年　年次集計報告書を作成
2013年　岐阜県独自のがん登録システムから標準DBSへ
2016年　全国がん登録システムに地域がん登録データ(2012年、2013年）の移行完了
2019年　岐阜県がん登録事業を
　　岐阜県庁→岐阜大学医学部附属病院へ委託

岐阜県全国がん登録の体制







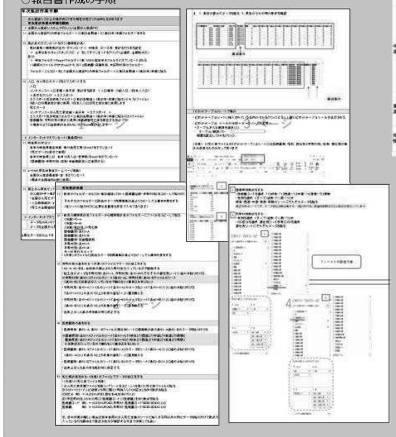
【取り組み】

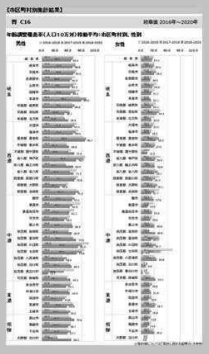
■精度維持の取組
・届出票の確認作業：チェックポイントを作成し実務者が同じレベルでチェックができるよう取組
・年次集計報告書の作成：経験の長い実務者が指導

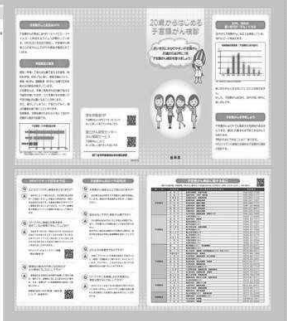
■報告書・リーフレット
年次集計報告書作成：岐阜県担当者と検討
医療圏別、市町村別のデータの活用にむけ、グラフ、地図を作成
・市町村データ：罹患、死亡率を3年移動平均作成
・医療圏別データ：部位別の発見経緯割合、発見時進展度
・リーフレット：全国がん登録データの活用
　子宮頸がん検診の啓発リーフレット『20歳からはじめる子宮頸がん検診』

○ 届出票の確認チェック

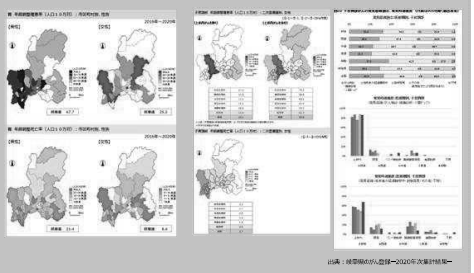
○報告書作成の手順







出典：　岐阜県「20歳からはじめる子宮頸がん検診」リーフレット



出典：岐阜県がん登録―2020年次集計結果―

【まとめ】

■今後の課題
届出のチェック作業は、複数の項目について目視での確認が必要
・チェック項目のマニュアル作成に取組　ブラッシュアップを行う
・実務者が退職等により減員となる場合の登録精度の低下を予測最小限にする取組
・全ての実務者が業務全体を一定の水準でできる
・登録データがどのように利用されるかを意識し精度を保つ
・作業の効率とのバランスを取れるよう検討

日本がん登録協議会　第34回学術集会　COI開示
筆頭演者名：纐纈五月
当演題に関し、開示すべきCOIはありません